

令和2年度

鹿児島学習定着度調査結果

～R3年度 鹿児島市みんなで実践～

[令和3年1月調査]



令和3年5月

鹿児島市教育委員会

編集に当たって

本書は、令和2年度鹿児島学習定着度調査を基に、各学校における児童生徒の資質・能力の育成を目的として編集してあります。

結果については、平均通過率だけでなく、度数分布でも表記しました。また、添付した「各設問の分類と平均通過率」のファイルに、それぞれの学校のデータを貼り付けると設問ごとに県と学校の通過率を比較できるようになっています。各学校においては、度数分布の山の形や課題のある設問について、学校全体で分析を行ってください。

今後の指導については、令和2年度に改訂した「かごんまよか授業」を基に、本年度本市で取り組みたい実践について、各教科で具体化した「R3年度鹿児島市みんなで実践」を掲載しました。また、児童生徒質問紙の結果からは、授業において、めあてや振り返りが行われていないと思っている児童生徒がいるという結果も出ています。各学校においては、さまざまな機会を捉えた授業改善に努め、児童生徒の資質・能力の育成につなげてください。

県が作成した「令和2年度鹿児島学習定着度調査結果報告書」、市が作成した「令和2年度改訂版かごんまよか授業」も併せて本調査の分析、指導に役立ててください。

目 次

I 調査結果の概要	1
II 学力調査の結果	
1 国語	2
2 社会	4
3 算数・数学	6
4 理科	8
5 英語	10
III 児童生徒質問紙調査の結果	12
IV 本調査問題等の活用	14

I 調査結果の概要

1 調査の概要

(1) 趣旨

ア 基礎的・基本的な知識・技能及び思考力・判断力・表現力等に関する学力状況及び児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況の把握

イ 市全体の状況把握、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善

(2) 内容

小学校：国語・社会・算数・理科、児童質問紙、学校質問紙

中学校：国語・社会・数学・理科・英語、生徒質問紙、学校質問紙

(3) 実施日

令和3年1月13日(水)・14日(木)、(児童生徒質問紙は15日まで)

(4) 対象

全ての市立小・中学校

学校種	学年	調査実施校数		調査実施児童生徒数	
		鹿児島市	鹿児島県	鹿児島市	鹿児島県
小学校	第5学年	78校	490校	5,265人	13,888人
中学校	第1学年	38校	210校	4,776人	13,070人
	第2学年	38校	214校	4,831人	12,786人

2 学力調査の結果

(1) 各教科の平均通過率

	学年	問題数	基礎・基本			思考・表現			全体			
			市(%)	県(%)	差(市-県)	市(%)	県(%)	差(市-県)	市(%)	県(%)	差(市-県)	(R元)
国語	小5	21	80.0	81.1	-1.1	63.5	63.1	0.4	74.5	75.1	-0.6	(-0.1)
	中1	24	84.5	82.9	1.6	74.8	73.8	1.0	80.1	78.7	1.4	(0.6)
	中2	27	76.8	76.8	0.0	76.2	76.6	-0.4	76.6	76.7	-0.1	(0.8)
社会	小5	27	79.6	80.5	-0.9	66.9	68.2	-1.3	74.4	75.5	-1.1	(-0.6)
	中1	27	70.2	67.1	3.1	60.0	58.8	1.2	66.8	64.4	2.4	(1.6)
	中2	27	68.8	67.6	1.2	68.2	67.6	0.6	68.6	67.6	1.0	(0.8)
算数・数学	小5	24	74.7	75.9	-1.2	51.9	53.7	-1.8	68.0	69.4	-1.4	(-0.5)
	中1	27	81.6	80.4	1.2	65.1	61.7	3.4	76.7	74.8	1.9	(1.1)
	中2	27	73.7	71.3	2.4	61.0	58.5	2.5	69.5	67.0	2.5	(1.4)
理科	小5	21	75.3	75.8	-0.5	74.3	73.7	0.6	74.9	74.9	0.0	(-0.8)
	中1	24	73.2	71.4	1.8	69.4	68.2	1.2	71.9	70.3	1.6	(1.6)
	中2	24	75.3	74.3	1.0	63.2	62.3	0.9	71.7	70.8	0.9	(1.2)
英語	中1	25	69.8	67.4	2.4	71.3	69.7	1.6	70.2	68.0	2.2	(1.1)
	中2	25	63.5	62.6	0.9	45.7	45.5	0.2	58.5	57.8	0.7	(2.2)

(2) 結果の概要

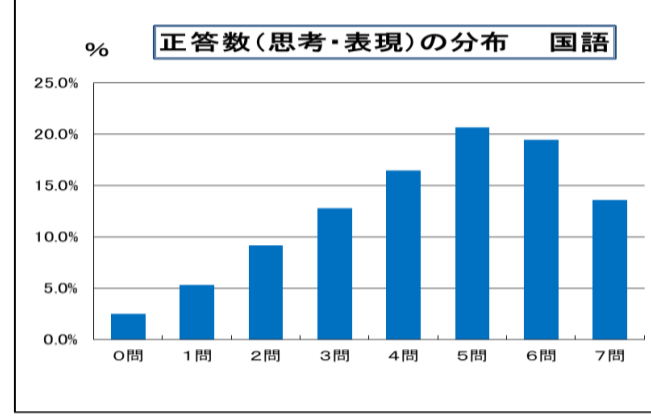
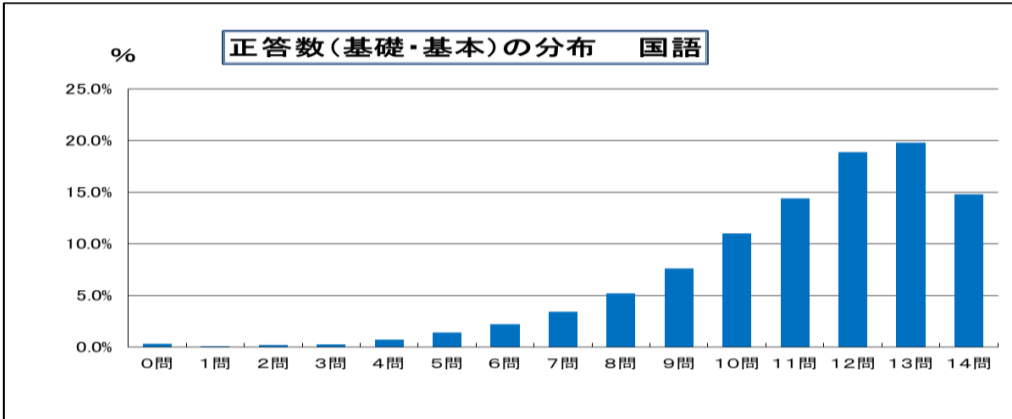
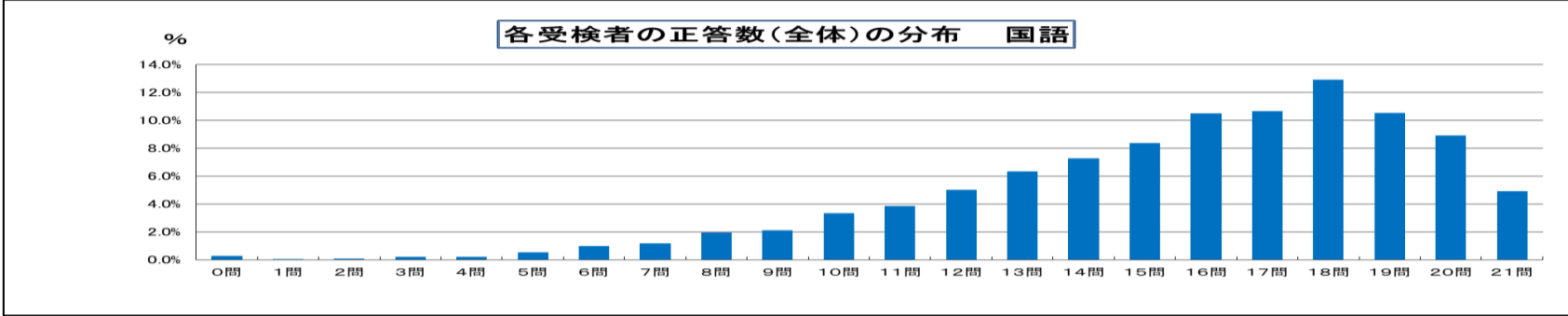
- ・ 小学校は、4教科中、国語、社会、算数において、県平均通過率を下回っている。
- ・ 中学校は、10教科中、中2国語以外の教科において、県平均通過率を上回っている。
- ・ 本調査の設定通過率とされている70%を超えた教科数は、14教科中、9教科である。

Ⅲ 学力調査の結果

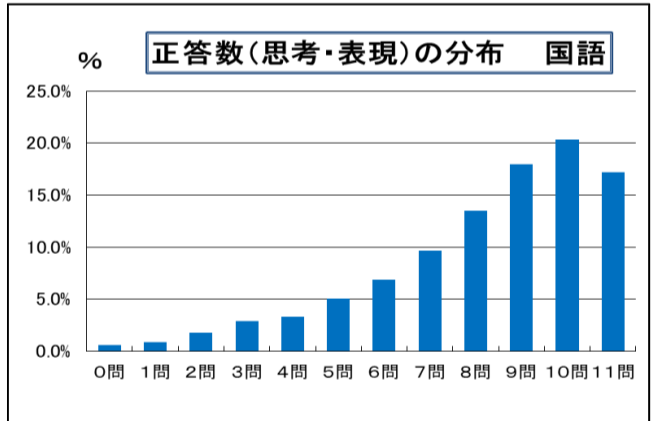
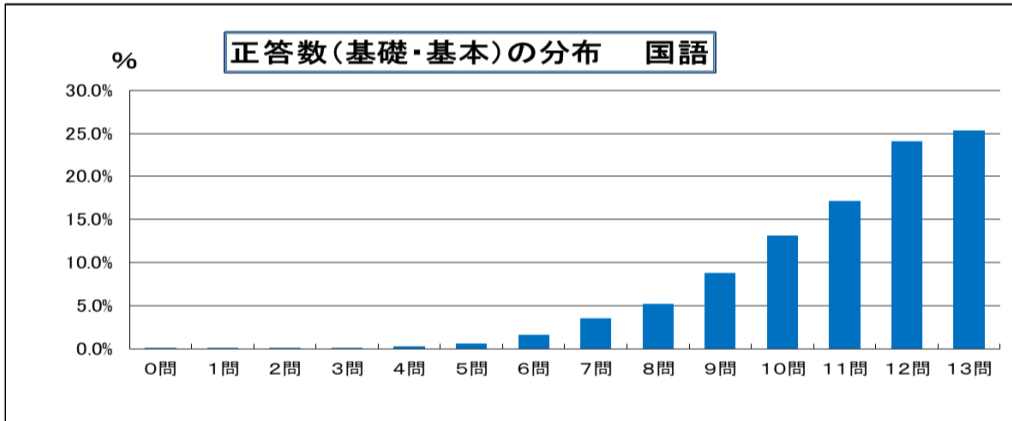
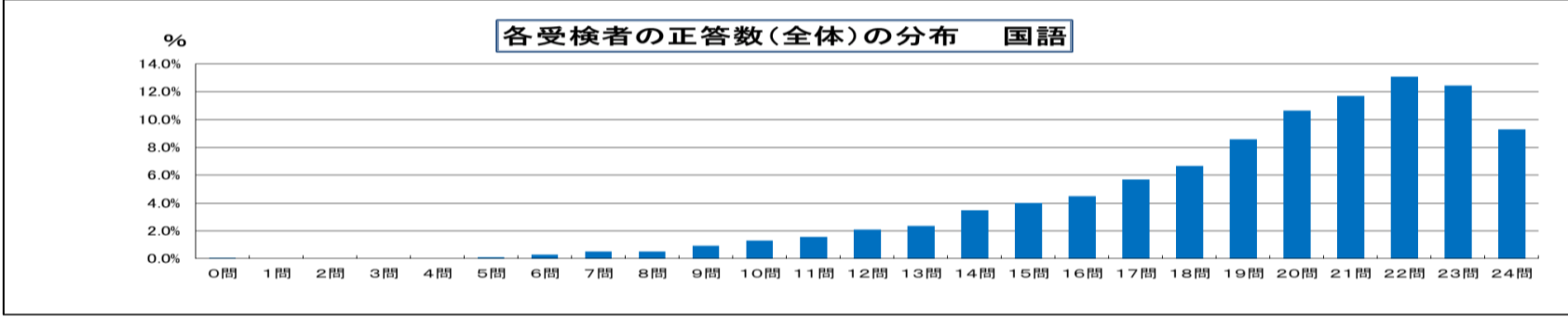
1 国語

(1) 全体

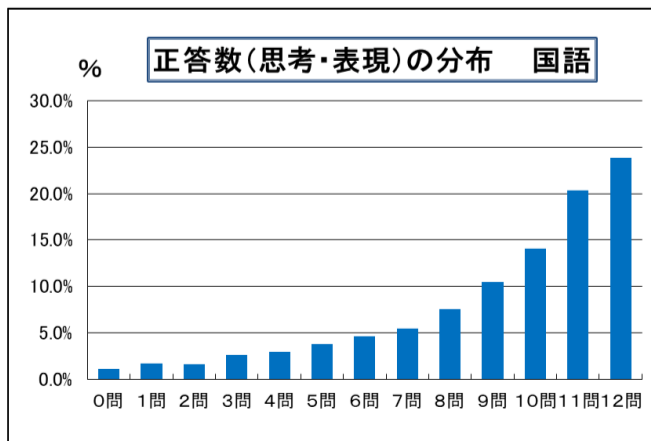
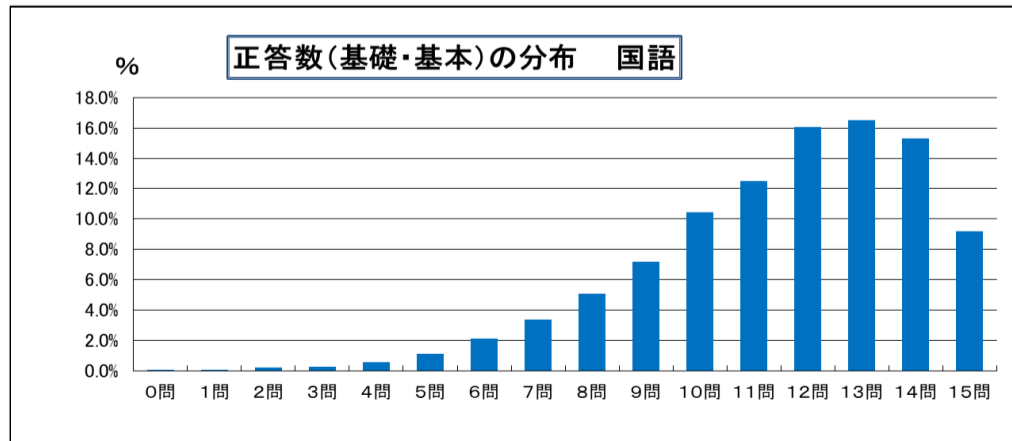
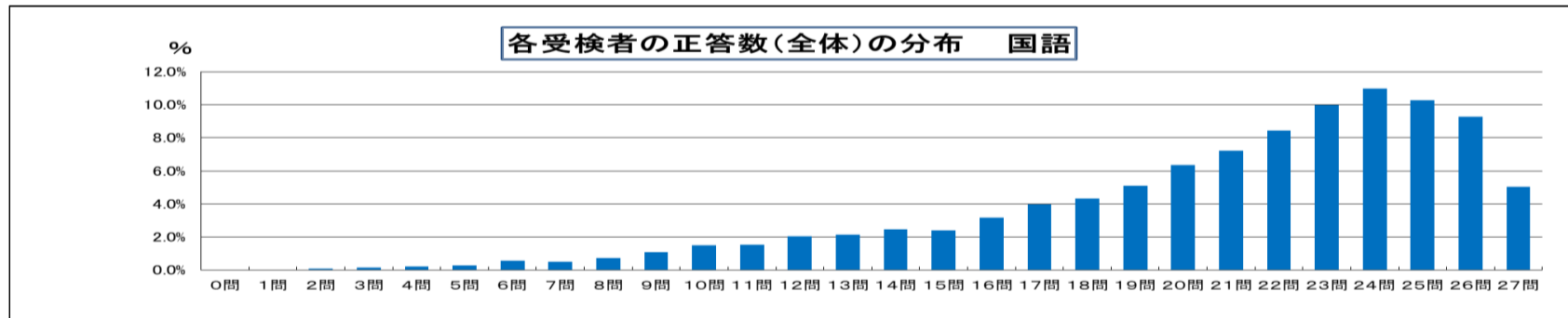
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】

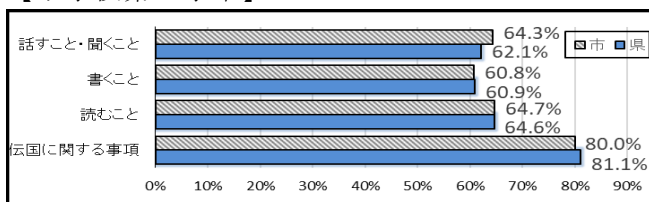


【中学校第2学年】

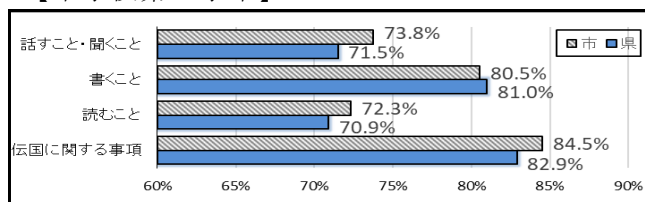


(2) 内容・領域別平均通過率

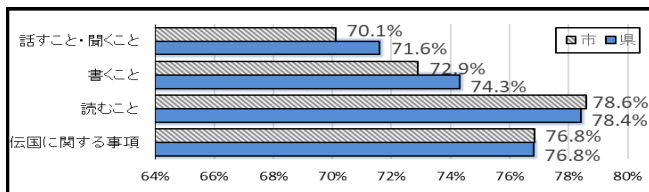
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】



R3年度 国語科の授業、鹿児島市みんなで実践

1 共通実践

発表や話し合いの場で、三角ロジックを使った思考をさせることで、論理的な思考力を育成する。

- ※ 三角ロジックとは、考え（立場）、根拠（本文や資料などの事実）、理由付け（知識や経験から考えたこと）の三つによる論理的な思考
- ※ 主張と理由の二つになる場合もある（根拠と理由付けを分けて考えにくい場合があるため）。

2 論理的思考力の育成に対応する課題（出題の意図）

【小5】 文学3-3 40.7%（R2鹿児島学習定着度調査）

（自分の考えを述べる際、根拠となる描写を文章から取り上げ、考えに至った理由付けを述べる。）

問い 次の【B】に入る部分を考えて、会話を完成させなさい。

「ぼくも、二人は以前のような親友になると思う。」

なぜなら、【B】

解答例 「ぼくたちは、とく意気な顔だった」と書いてあり、協力してこいを釣り上げたことから、一人で達成感を味わっていると思うから

3 目指す児童生徒の姿

- ・ 考え（立場）に対する根拠や理由付けを適切に結び付けて発言したり、他者の考え（立場）の根拠や理由付けを比較・関連付けながら話し合ったりする姿。
- ・ 自分の考え（立場）を支える根拠（本文や資料）を引用して書く姿。
（例 ○○と考える。理由は「 」と書いてあり、○○と思うからだ。）

4 共通実践例

① 発表したり、書いたりするときは、自分の考え（立場）だけでなく、文章のどこからそう考えたのか（根拠）、なぜそう考えたのか（理由付け）に注目させる。

② 学習課題や話し合いのテーマを工夫し、根拠や理由付けに着目した解決を図らせる。

ア 「AかAでないか」の型で問う。

「手紙を待っているときのがまくんとかえるくんのしあわせな気持ちは同じか、同じでないか。」

イ 考えを選択したり、順番を付けたりする

「お世話になった卒業生に贈る○○にふさわしい短歌を一つ選ぼう」

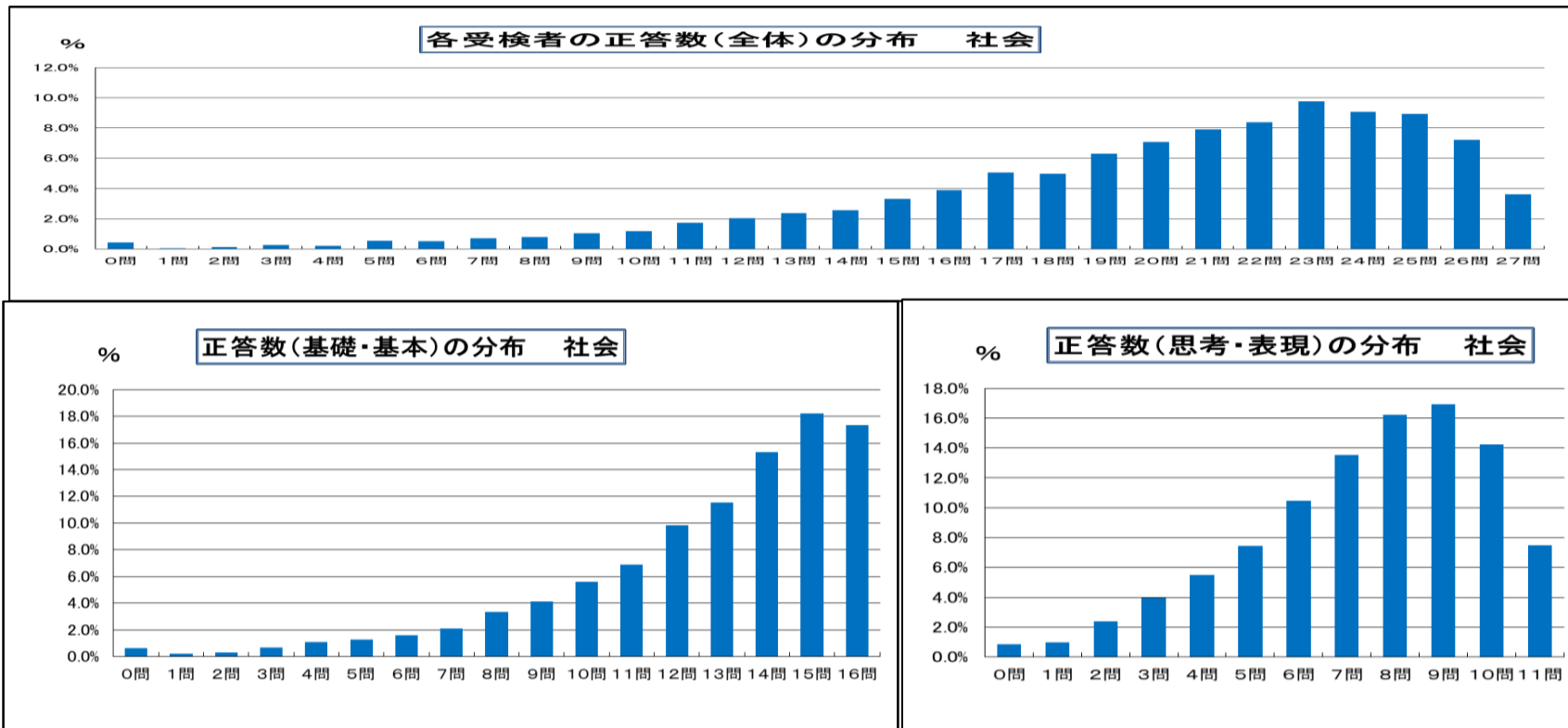
※ 具体的な生徒の姿（作品や発言）を、教師が予想して自ら作っておくことが大切です。

※ 授業の最後の「振り返り」を大切に、友達の考えや新たに増えた読みの視点など、今後の自らの考えの形成に生かせるようにする。

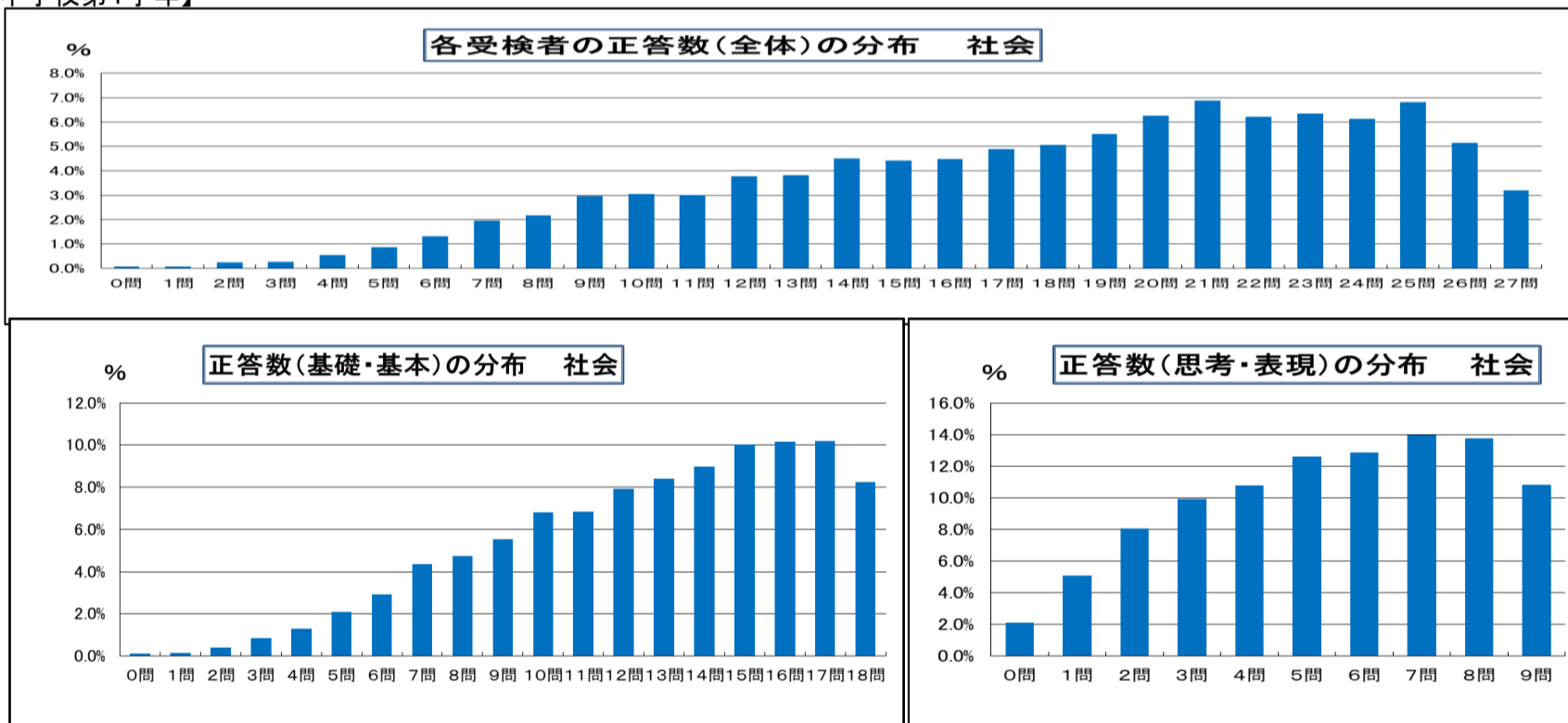
2 社会

(1) 全体

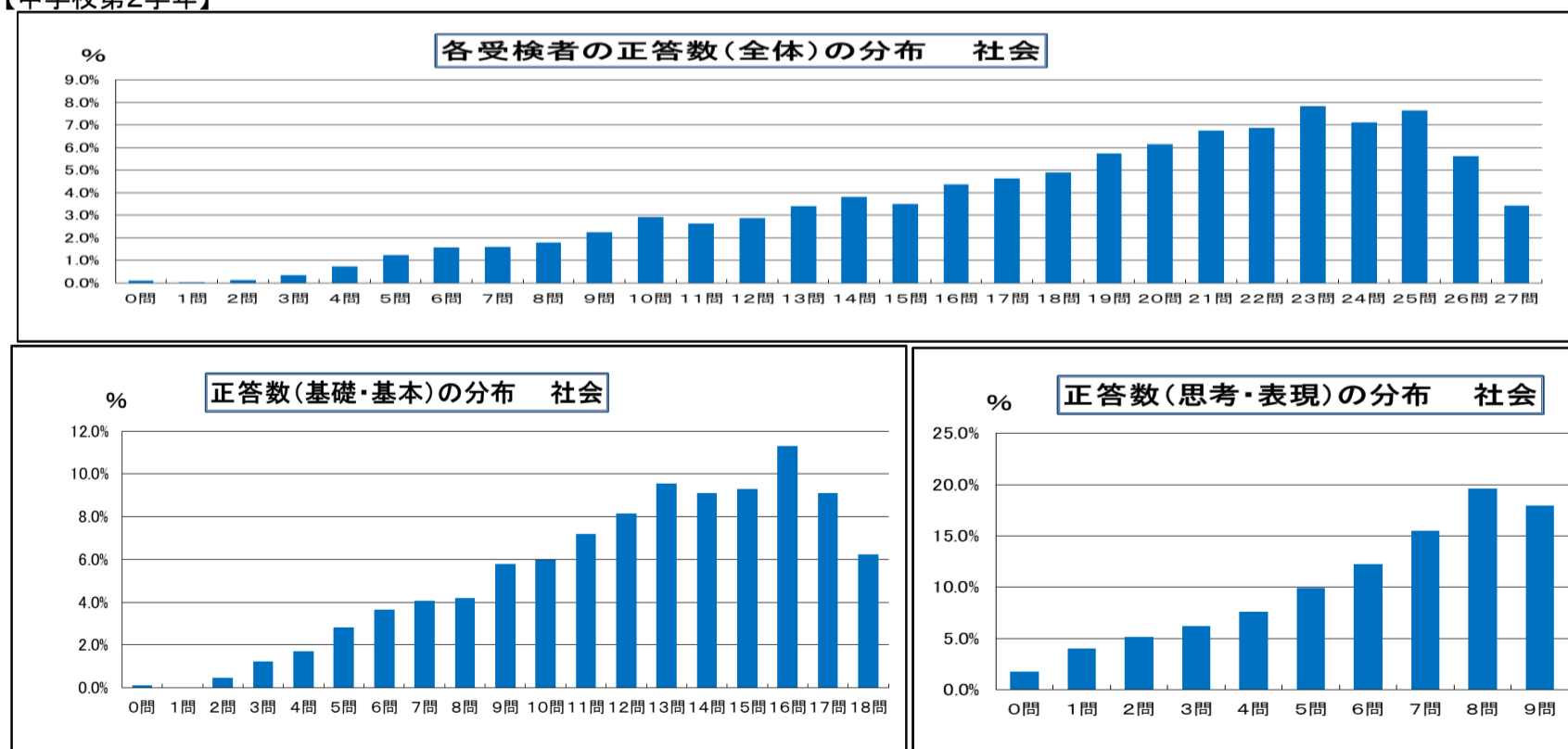
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】

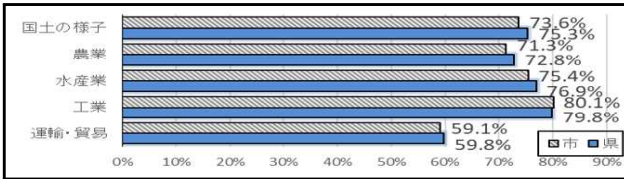


【中学校第2学年】

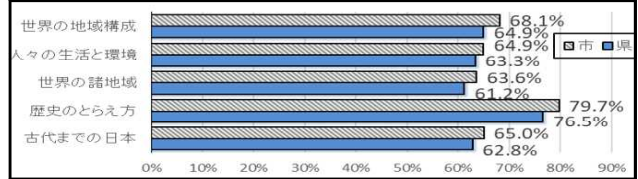


(2) 内容・領域別平均通過率

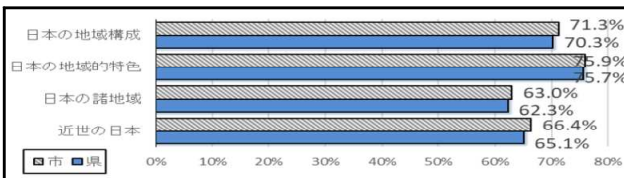
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】



R 3 年度 社会科の授業、鹿児島市みんなで実践

1 共通実践

毎時間の社会科授業を問題解決的な展開にする
～質の高い「問い」と「答え」で授業設計を！～

2 対応する課題

【小5】 大問2(3) 二つの雨温図を比較して鹿児島
の気候の特色を説明する。(市：38.1%)

【中1】 大問2(3) 写真と雨温図を基に気候の
特色を説明する。(市：44.5%)

【中2】 大問6(3) 天下の台所と呼ばれた理由
を資料を基に説明する。(市：52.1%)

3 共通実践例

(1) 授業のゴールを明確にする。

本時(本単元)の授業の終末で、児童生徒がどのような言葉で「まとめ」を書ければよいのか教師は「子供の言葉」で準備していますか。その「子供の言葉」は、重要語句ではありません。「個別の事実」と共に、「概念に関わる知識」を含んだ文章が「まとめ」になります。

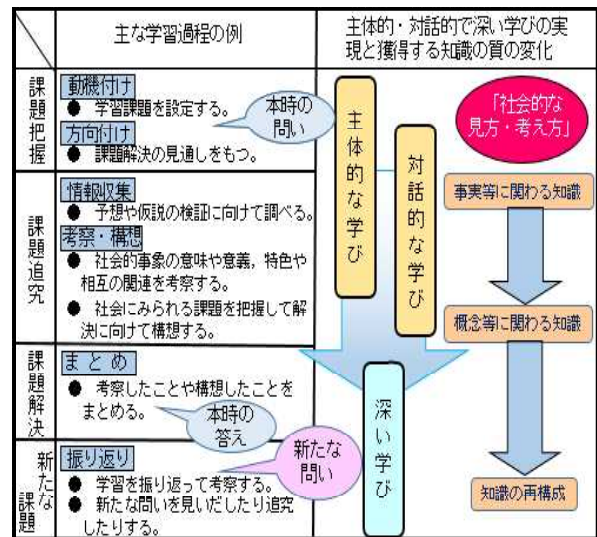
【例】江戸時代、大阪には全国の諸藩の蔵屋敷が建ち並んでいた。幕府が全国支配のため、江戸と大阪・京都を結ぶ五街道をはじめ、主要な道路を整備したことに加えて、東回り航路と西回り航路の海運も発達した。諸藩は、それらの交通路を利用し、年貢米や特産物を大阪の蔵屋敷に集め、売りさばいたので、大阪は商業の中心地となり、天下の台所と呼ばれた。

(2) ゴール(まとめ)を導き出す「めあて」(学習問題・学習課題)を決める。

明確なゴールにたどり着くためには、質の高い「問い」が必要です。質の高い「問い」を生むためには、教師の工夫が必要です。児童生徒に「解決したい」と思わせる何らかの提示がポイントになります。そのヒントは、「社会的な見方・考え方」(考える視点と方法)にあります。

【例】「天下の台所について調べましょう」では、その問題を解決しようという意欲は生まれません。また、教師が「江戸時代に発達した都市や交通路は何か」と学習問題(課題)を投げ掛けても、児童生徒が問題解決に向かう必要感は生まれにくいものです。

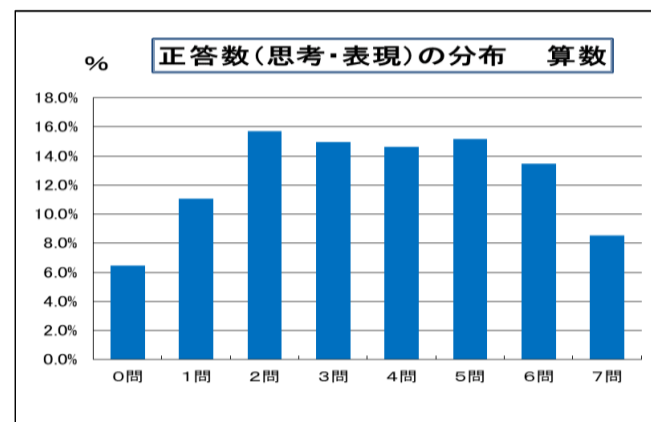
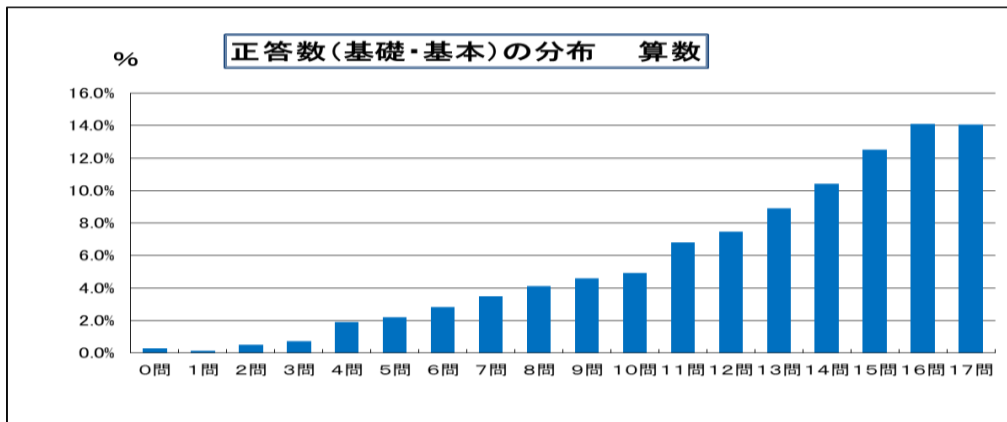
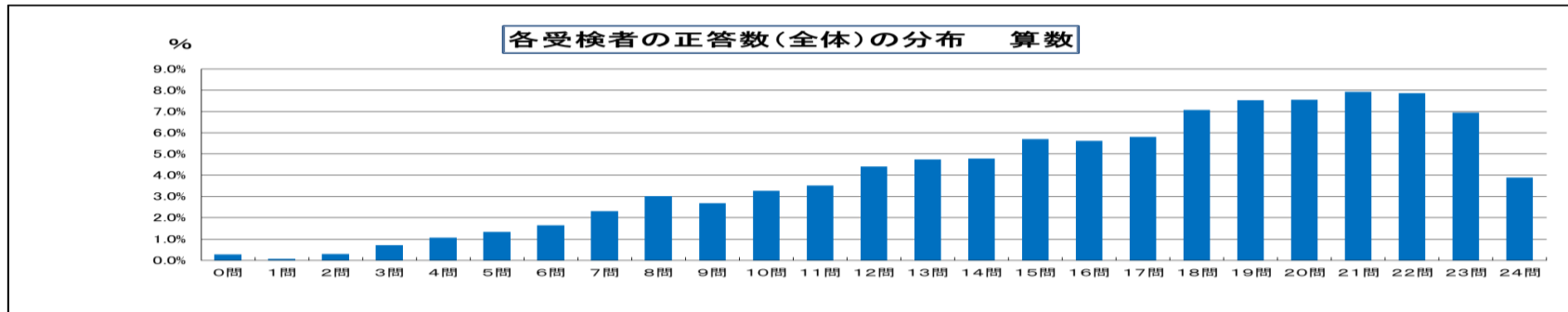
例えば、大阪に集まってくる廻船や蔵屋敷の絵を見せて、気付きや疑問をつぶやかせることで、「どうして、大阪に集まってくるのか」「海路が発達しているようだが、陸路はどのようなになっているのか」などの問いが生まれます。それらの問いをまとめ学習問題(課題)を作りましょう。「大阪はなぜ天下の台所と呼ばれたのだろうか」とか「どのような交通路や都市が発達したのだろうか」などとしてみてはどうでしょうか。(ここには、大阪という地理的な視点や、他の都市と比較した考え方、蔵屋敷と船を関連付けた考え方について、児童生徒が気付くよう仕掛けがあるはずで、これが、「社会的な見方・考え方」を働かせるということになります。)



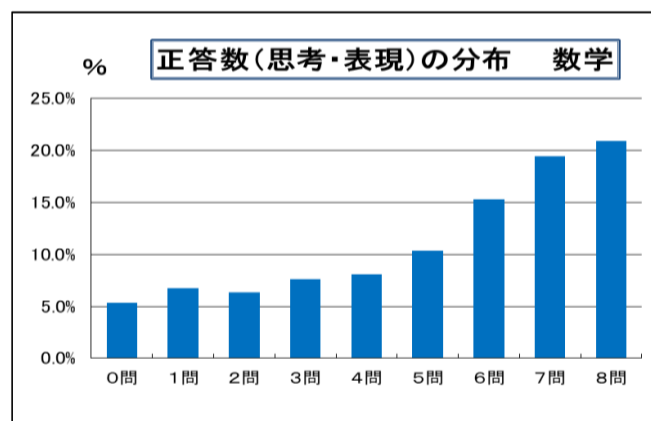
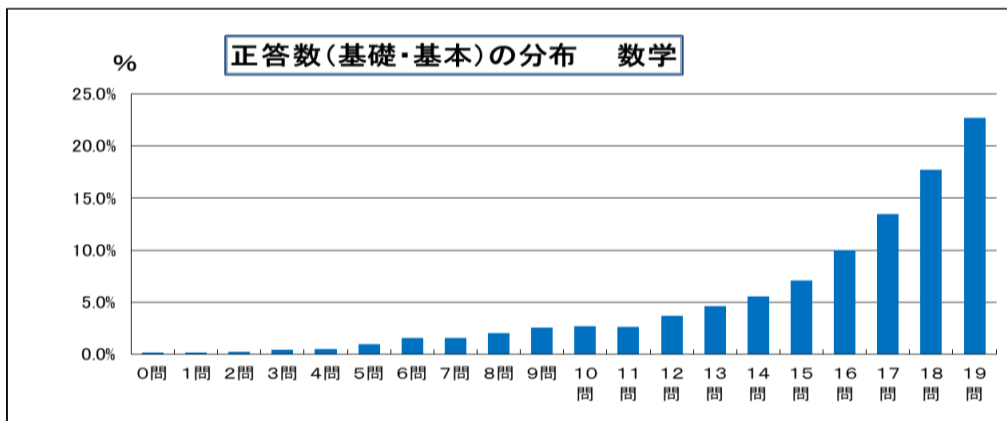
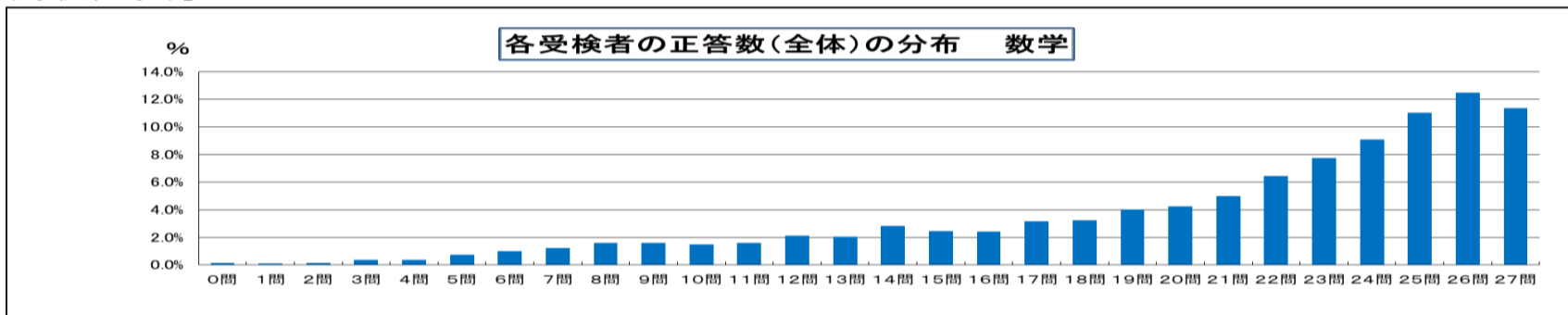
3 算数・数学

(1) 全体

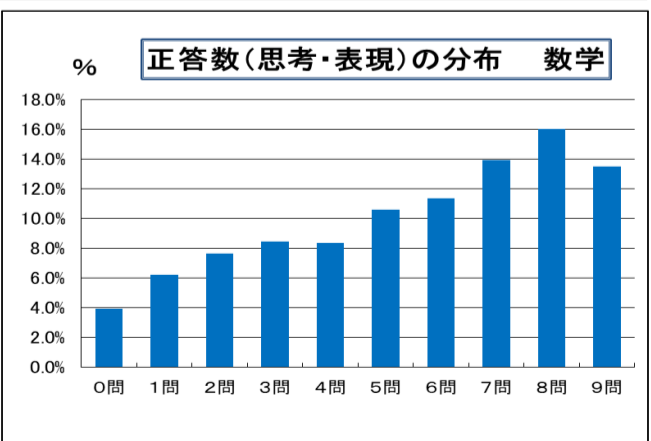
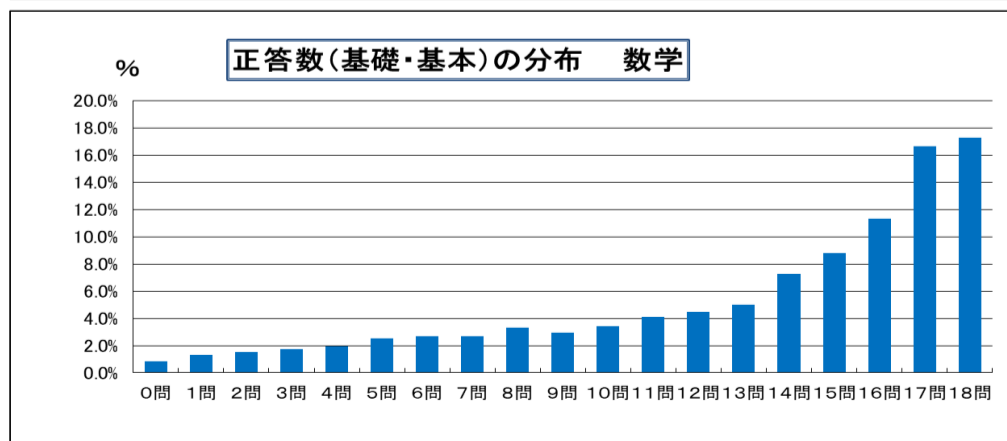
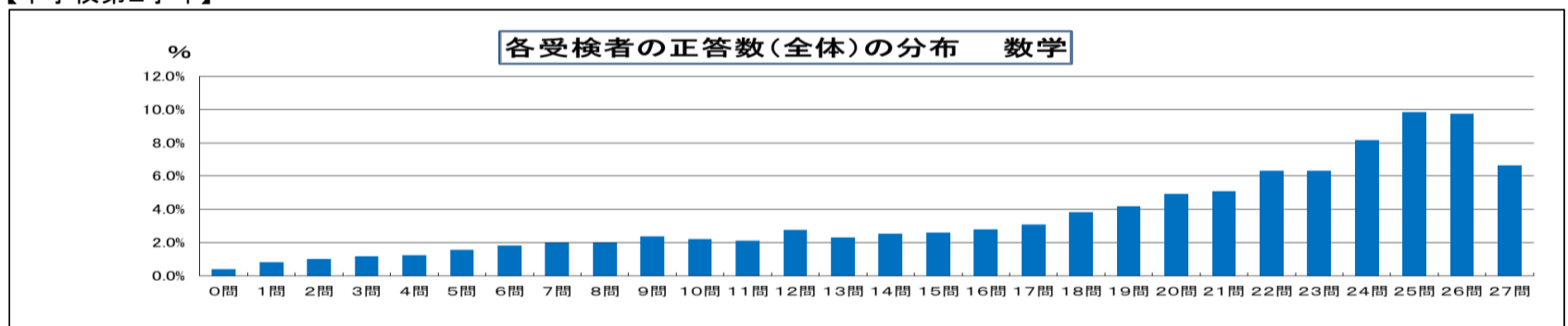
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】

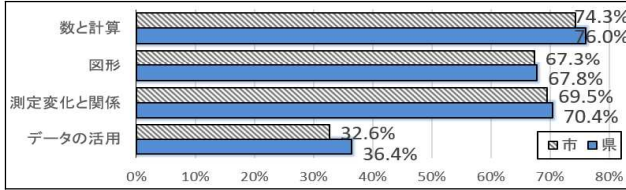


【中学校第2学年】

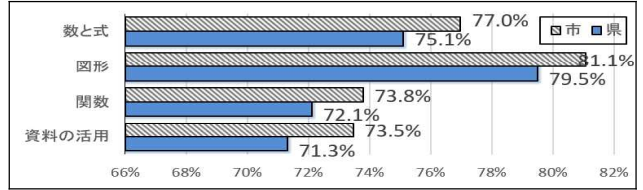


(2) 内容・領域別平均通過率

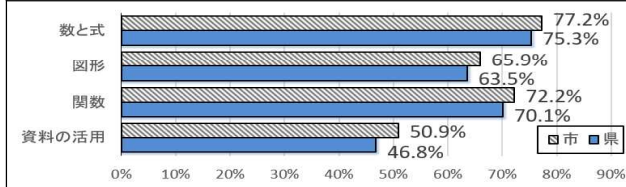
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】



R 3 年度 算数・数学科の授業、鹿児島市みんなで実践

【小学校】

1 共通実践

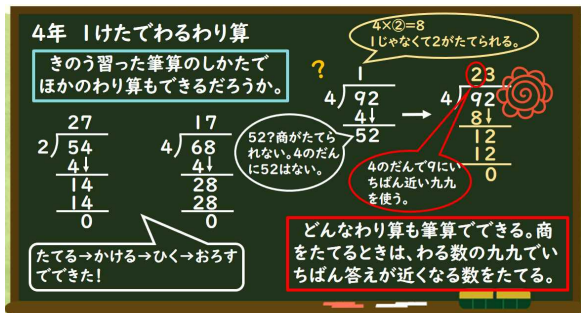
根拠を基に自分や友達が考えたことを説明する力を育成する。

2 対応する課題

大問8 (2) (市：40.6%)、大問10 (2) (市：29.9%)

3 共通実践例

(1) 思考過程を可視化し、どのように問題を解決していくかを児童自らがまとめられるようにする。



思考過程が見える化した板書例

【共通実践のポイント】

- ① 考えたことに対して「どうしてこうなったの？」と問い掛けましょう。(「かごんまよか授業P6」参考)
- ② 問い掛けによって、明らかになったこと(考えの根拠)を黒板に書き加えましょう。
- ③ 児童同士で、根拠を基に考えを説明できるか確かめ合う場を設けましょう。
- ④ 学習問題に対するまとめを共有し、児童自身でまとめを書く時間を確保しましょう。

(2) 習得した考えを確かなものにするために、適用問題に挑む場を設ける。

児童自ら習得した考えを使って問題解決できるようになるためには、適用問題への挑戦が大切です。どんなときでも習得した考えさえ使えば解決できると児童が実感できるようにしましょう。

【中学校】

1 共通実践

自分の考えを相互に説明する活動を充実させることで学習意欲を高め、「数学的な表現を用いて理由を説明することができる力」を育成する。

2 対応する課題

中2：[8]3・4 (市：45.7%・42.0% R2鹿児島学習定着度調査)

[8]3 「ハンドボールを28m以上投げることができる生徒は、A中学校の方が多し」と主張することができる。その理由を相対度数を使って説明する。

[8]4 [7]が含まれている階級が[4]の階級なので、太一さんは、運動部活動生の中で真ん中より低い方とは言えないよ。([7]、[4]にあてはまる用語と数値の組み合わせとして正しいものを下の①～④の中から1つ選び、記号で答えよ。)

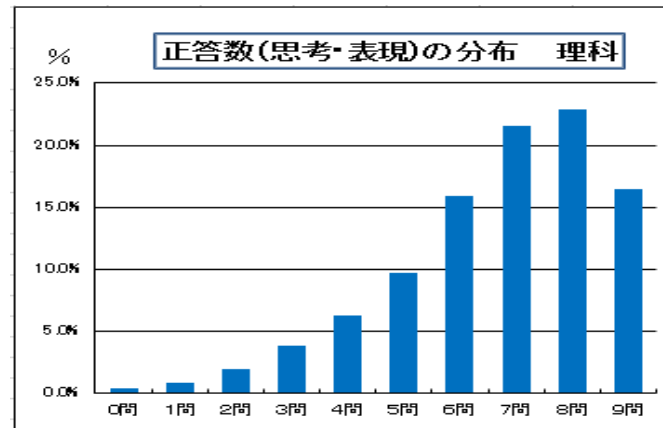
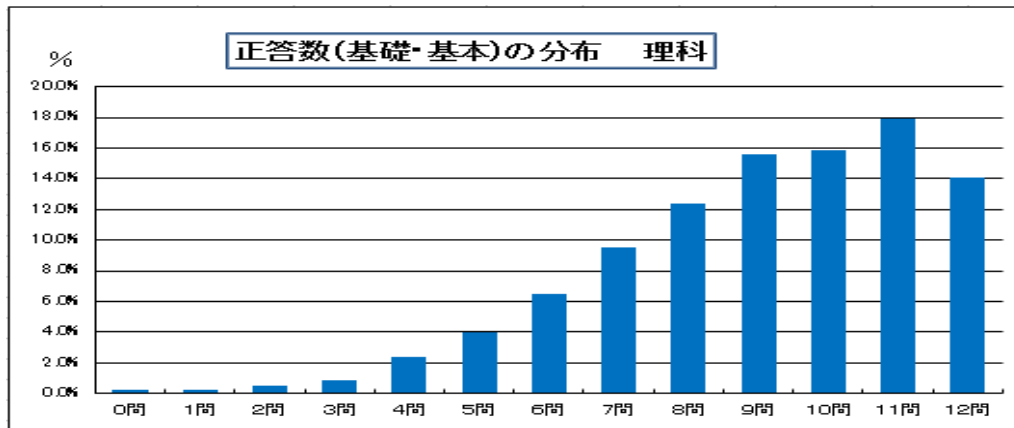
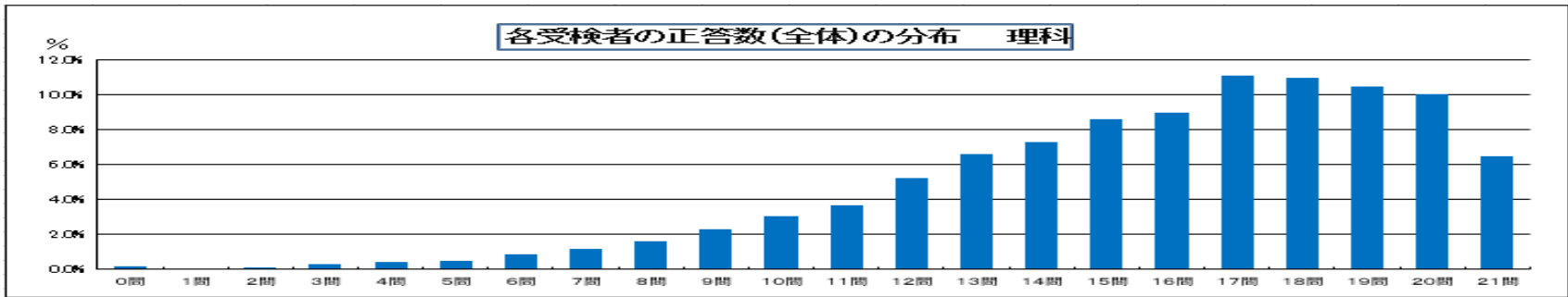
3 共通実践例

- ① 代表値(相対度数、中央値、最頻値)を復習させる。
- ② [8]3に取り組みさせるが、理由の説明において、「相対度数を用いて」という部分を「代表値を用いて」とし、何を用いて説明すればよいか(数学的な表現)を生徒に考えさせ、話し合いの場を設けて、なぜそう考えたのか(理由の説明)を明確にさせる。
- ③ [8]3の演習として、[8]4に取り組みさせるが、①～④の選択肢は与えない。
- ④ 令和2年度公立高校入学者選抜学力検査[3]3(2)に取り組みさせる。※入試問題を意識させる。

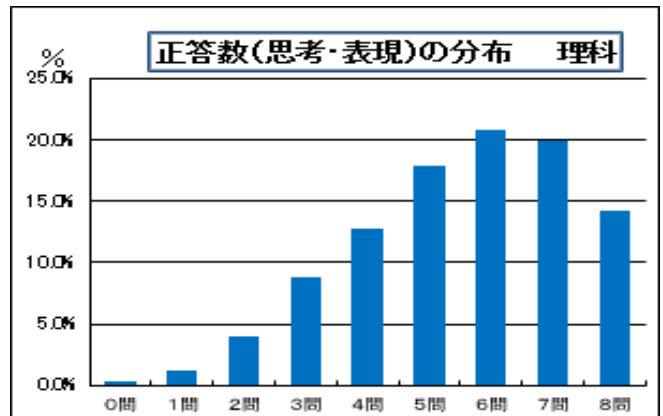
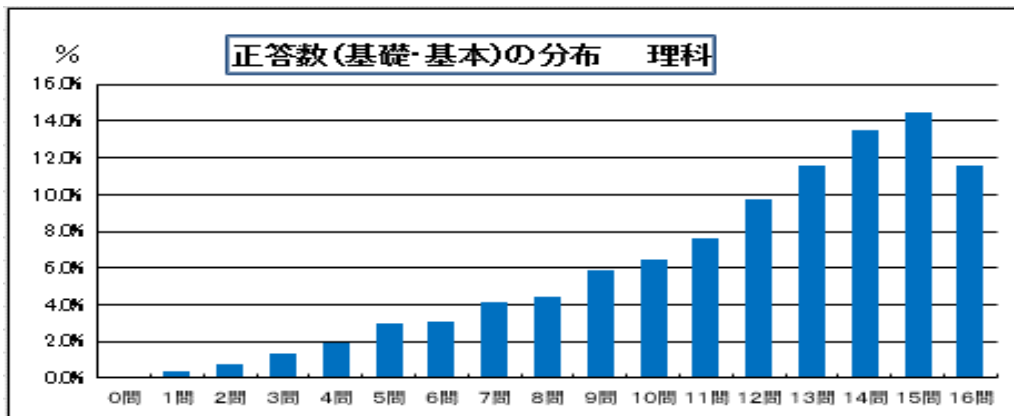
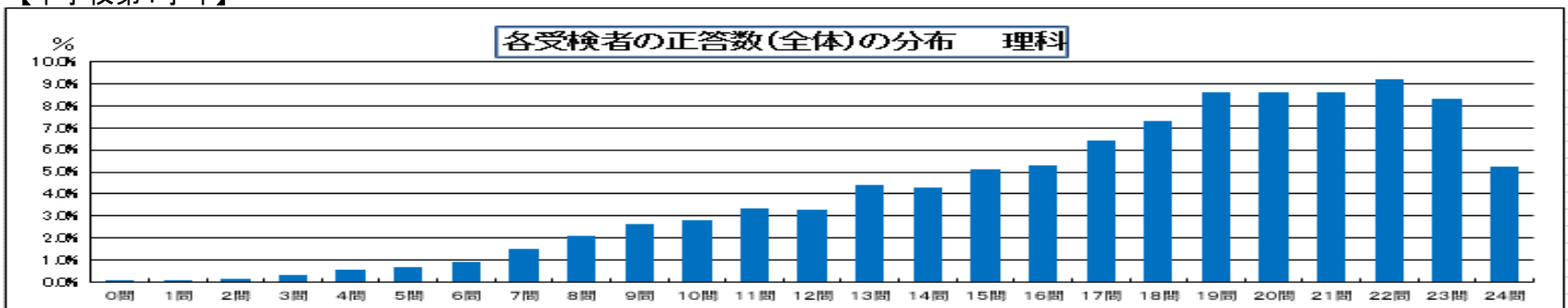
4 理科

(1) 全体

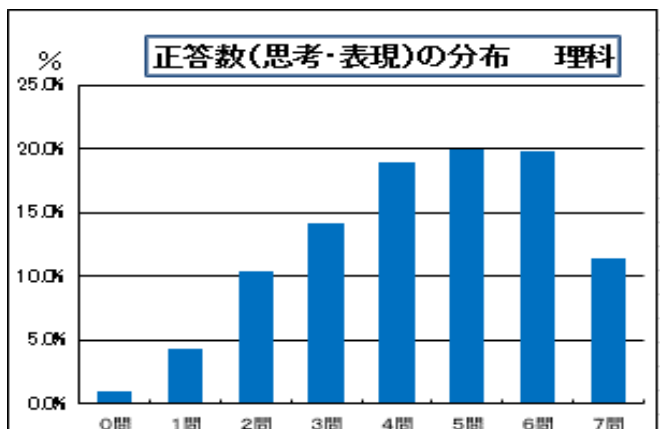
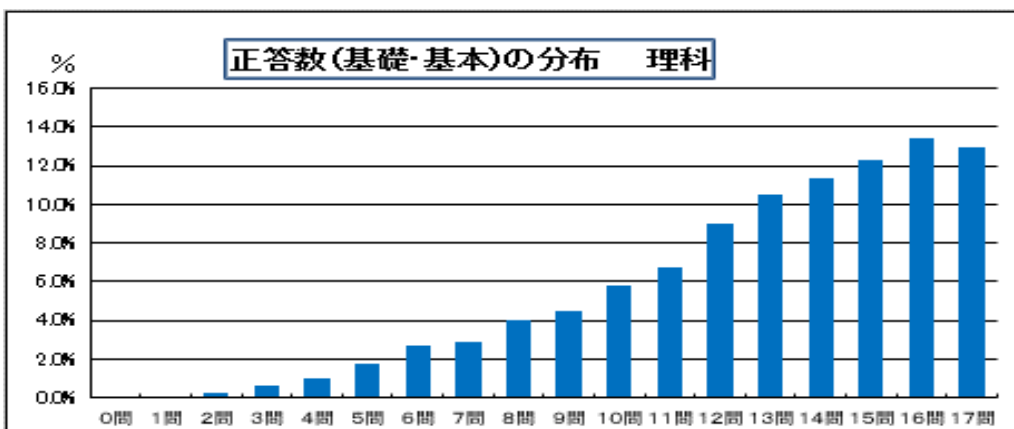
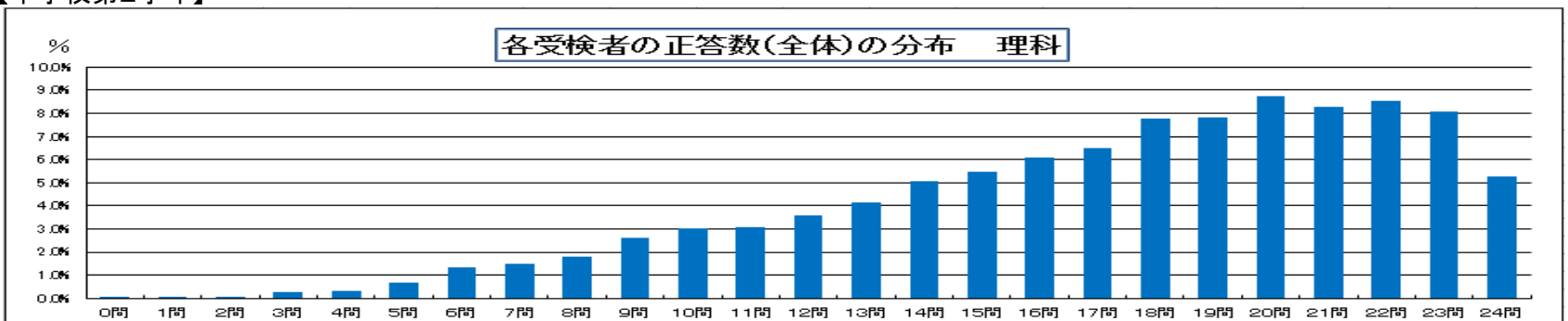
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】

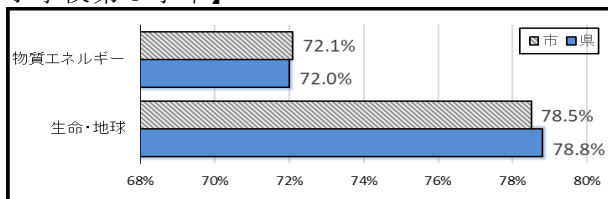


【中学校第2学年】

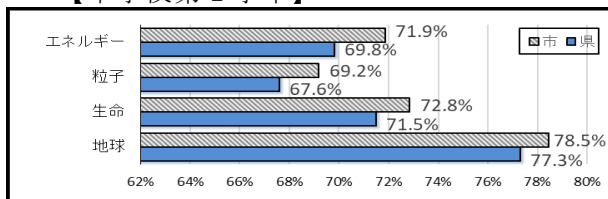


(2) 内容・領域別平均通過率

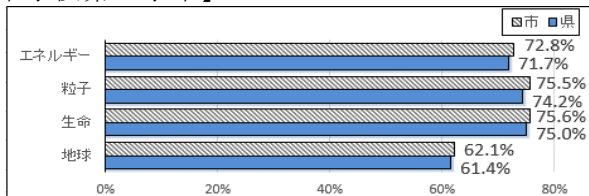
【小学校第5学年】



【中学校第1学年】



【中学校第2学年】



令和3年度 理科の授業、鹿児島市みんなで実践

1 共通実践

(1) 「問題解決の過程」(小学校)、「探究の過程」(中・高等学校)を踏まえた授業を展開する中で、特に自分の考えを再構築する過程を重視した指導の充実を図る。

- ① 見通し・振り返りを大切にすること。
- ② モデル図や表、グラフを用いた考察を大切にすること。

(2) 系統性(単元間のつながり、小・中・高の連携)を意識した指導の充実を図る。

- ① 前の学年の調査問題をレディネスの把握に活用すること。
- ② 当該単元や後の学年の調査問題から到達すべき目標を明確にすること。

2 対応する課題(出題の意図) ※ 数値は、平均通過率を表す。

- 結果の見通しを問う問題
小5 大問6-(1) 市：51.1%
- 適切なモデル図を選択する問題(水溶液、雲のでき方、化学変化)
中1 大問8-(3) 市：70.8%
中2 大問5-(4) 市：57.1%、大問7-(2) 市：81.7%

3 共通実践例

(1) 見通し・振り返りを大切にしたい指導

実験の予想をするときは、正しい予想が出ることをゴールにしない。「なぜ、そう考えたのか。」「その予想からどのような実験結果を見通すことができるか。」「自分と他者の意見を比較しながら考えを深める姿勢を養う。」
実験後には、自らの予想を振り返らせ、誤った予想に対してはどこを修正する必要があるのかを問い、考えの再構築を促す。その過程で働かせた見方や考え方の蓄積が本質的な理解につながる。

(2) モデル図や表、グラフを用いた考察を大切にしたい指導

実験後は、データ等を表やグラフに整理し考察したり、モデル図に表現し、その妥当性を相互に検討し合ったりする活動を重視する。
モデル図に表現し、他者と吟味し合うことで曖昧であった理解や既存の素朴概念に気づき、児童生徒自らが考えを再構築することが期待できる。日頃から互いに学び合う雰囲気を大切にするとともに、根拠を明確にしながらか検討する姿勢を大切にすること。

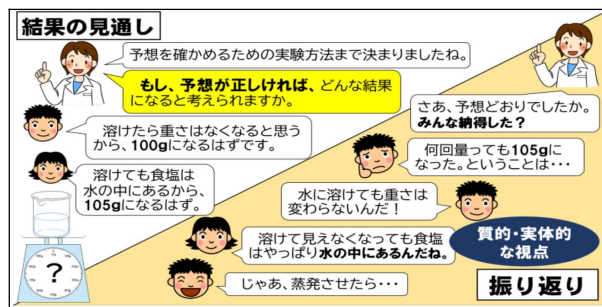


図1 小学5年「物の溶け方(溶けた物の重さ)」の例

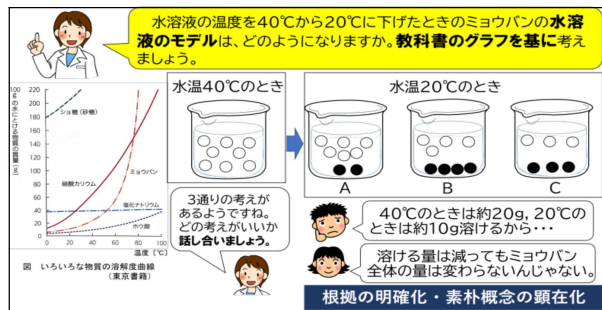


図2 中学1年「水溶液の性質(溶解度と再結晶)」の例

(3) 系統性を意識した指導

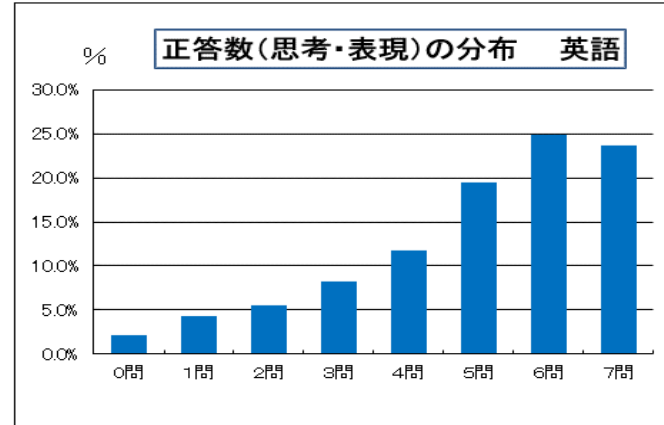
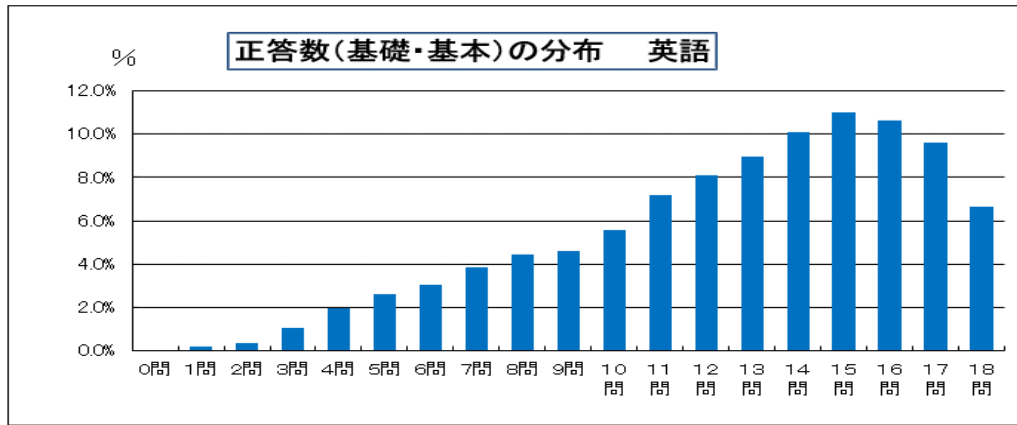
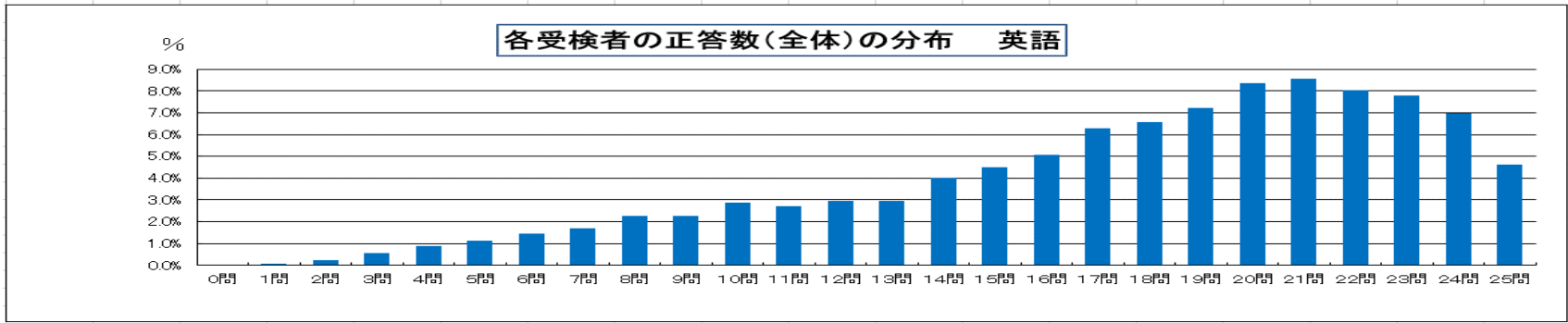
単元間のつながりや小・中・高の連携を踏まえた指導の充実を図るために、教師自ら、他校種、他学年の鹿児島学習定着度調査等の問題を解いてみる。そのことにより、例えば、図1、図2のような指導の系統性を捉えることができるため、レディネスの把握や指導の重点化に役立てることができる。また、確実な定着を図るために、単元末等の振り返りに活用する。

※ 調査問題は、かごしま学力向上支援Webシステムに掲載されている。また、過去の調査問題を活用しやすいように加工した「チャレンジ理科」(小学校)、「理科のチカラ」(中学校)をSee-Smile(学校間共有フォルダ)に掲載している。

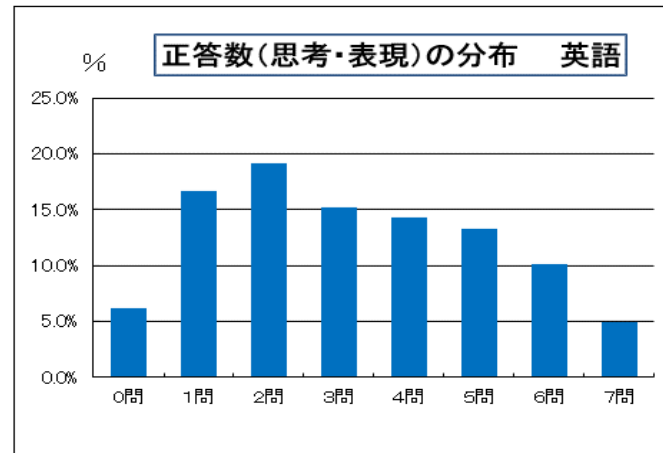
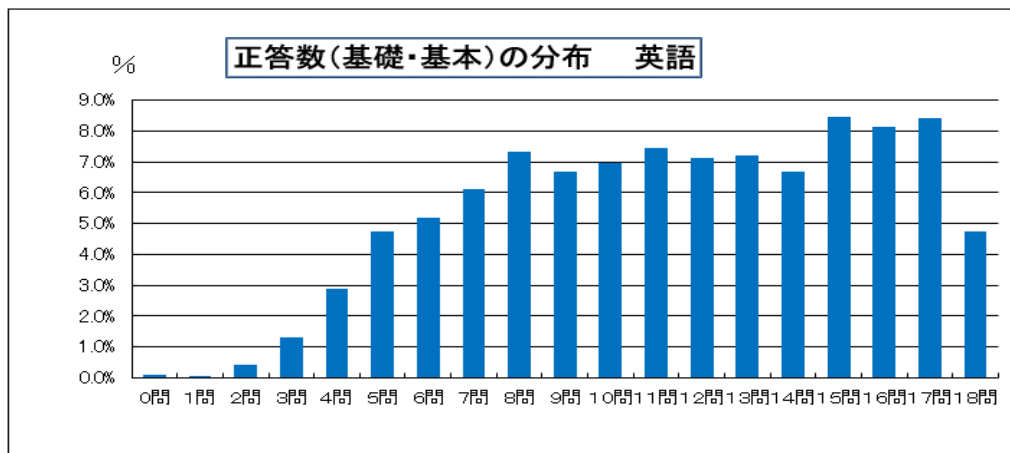
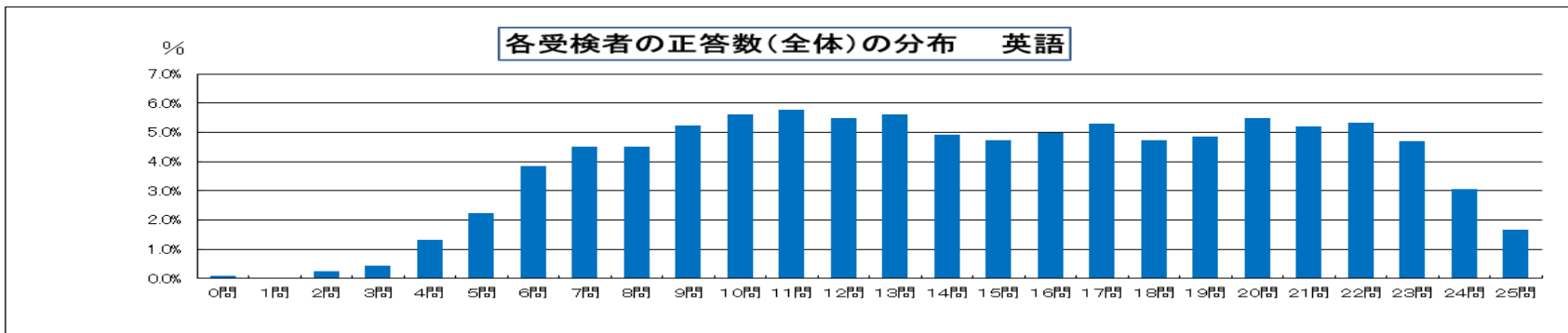
5 英語

(1) 全体

【中学校第1学年】

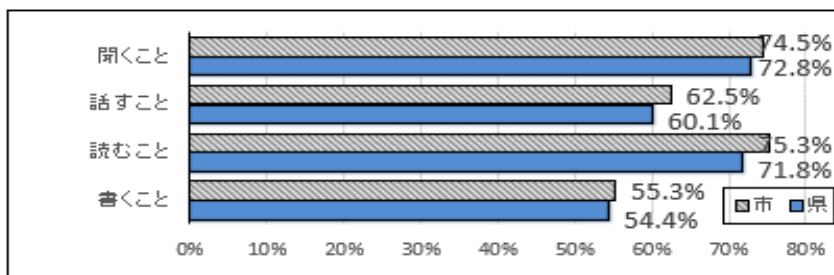


【中学校第2学年】

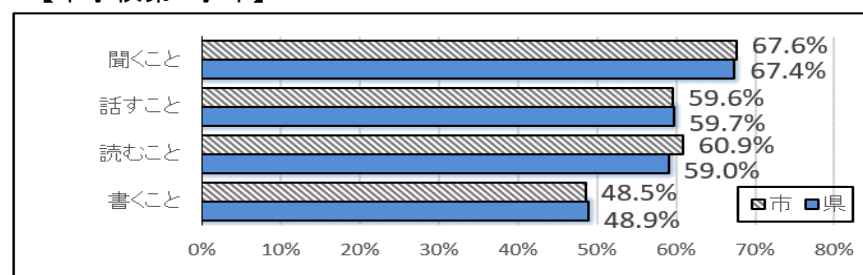


(2) 内容・領域別平均通過率

【中学校第1学年】



【中学校第2学年】



R3年度 外国語（英語）の授業、鹿児島市みんなで実践

【小学校】

1 共通実践

子供たちが友達と話したくなるような目的や場面、状況を設定して行う言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

2 共通実践例

- (1) 授業づくり
 - ・ 先生が英語を話すことを楽しみ、子供と一緒に学ぶ姿勢をもつようにする。
 - ・ スモールステップを踏むことで、少しずつできることを増やし自信を付けさせる。
- (2) 黒板やICTの効果的な活用
 - ・ 「今日のめあて」を書いて、「授業で何をしたのか」、「何ができるようになったのか」などの振り返りをする。
 - ・ 電子黒板を活用して歌やチャンツなどのデジタル教材に取り組みせ、タブレットなどのICTを活用して、ペア活動でのやり取りやプレゼンテーション活動を行うことで、視覚的に意味を理解させるなど、効果的に英語に慣れ親しませる。
- (3) 学びの動機付け
 - ・ Small Talkを活用して「今日のめあて」に関する単語や表現をモデル会話で示し、学習の見通しをもたせる。また、子供たちに問いかけながらやり取りをして会話を展開することで、表現方法の気付きを与え英語での会話の楽しさを体験させる。
 - ・ AEAやALTを効果的に活用し、英語や外国への興味・関心を高める。
- (4) その他
 - ・ 単元の目標や評価規準を設定し、多様な視点で子供たちの活動を見取り、評価を行う。
 - ・ 中学校の先生に授業を見てもらい、子供たちが慣れ親しんだ表現を把握してもらうなど小中連携教育の充実を図る。

【中学校】

1 共通実践

コミュニケーションを行う目的、場面、状況を設定して行う言語活動を通して語や文法事項等を正しく用いて表現する力を育成する。

2 語や文法事項を正しく用いて表現する力の育成に対応する課題（出題の意図）

中1

10

 (2) 市：43.6%（疑問詞＋名詞を使った疑問文を正しい語順で答える。）

11

 (1) 市：34.0%（対話の場面を理解し、適切な語を入れる。）

中2

9

 (4) 市：40.0%（不定詞の用法を理解し、正しい語順で答える。）

10

 (1) 市：33.9%（対話文中の空所に当てはまる表現を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する。）

※ 共通実践により、中2

8

（話の内容や書き手の意見などを捉え、自分の考えを示す。）の無回答率21.6%の改善等にも繋がるのが期待できる。

3 共通実践例（国立教育政策研究所HP「中学校英語指導事例集」から）

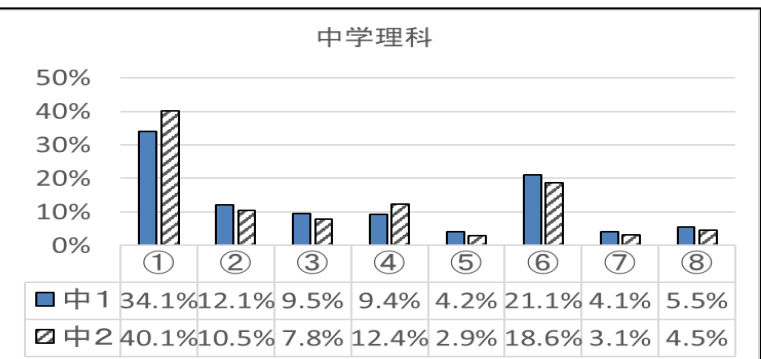
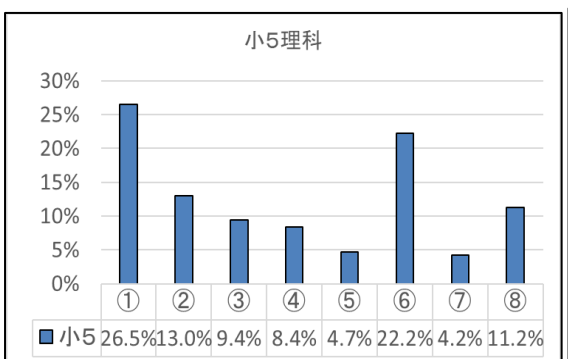
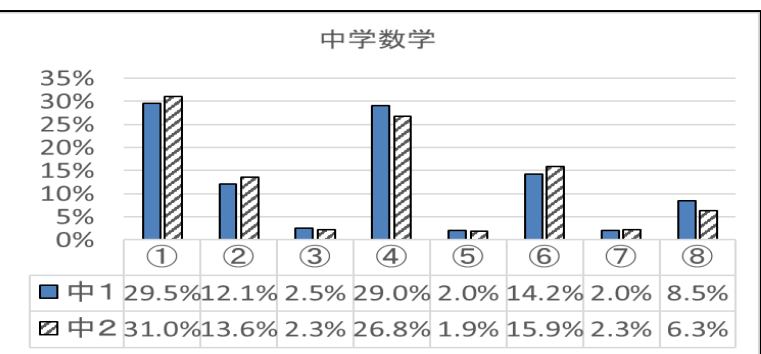
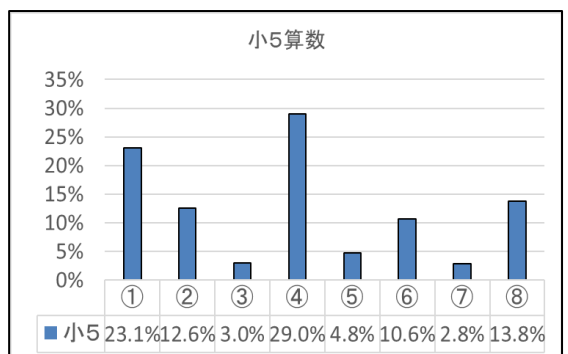
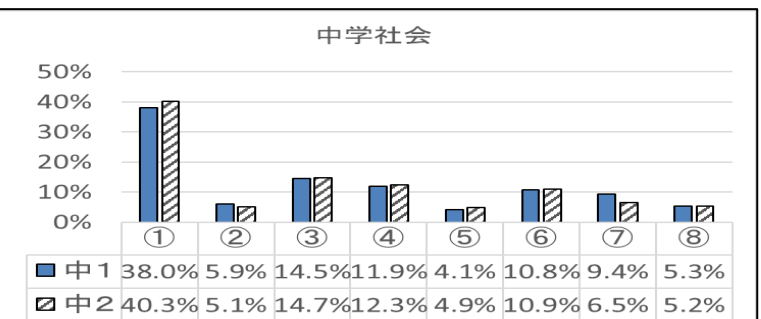
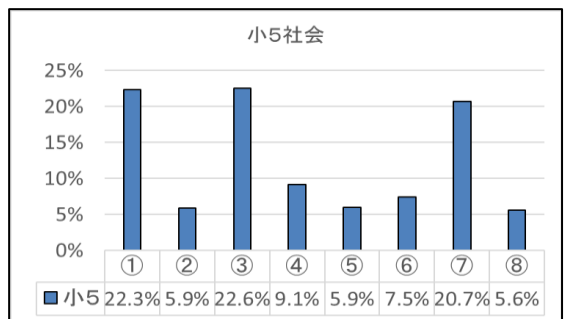
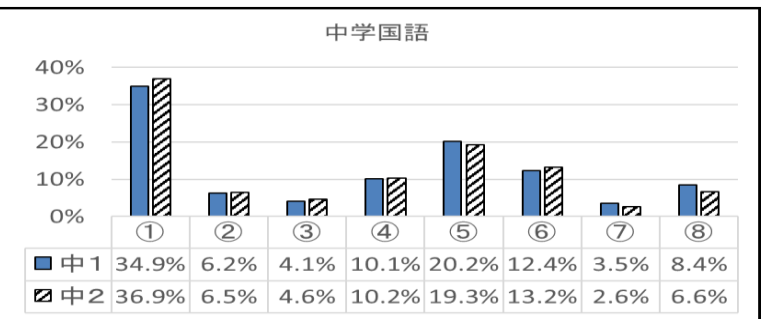
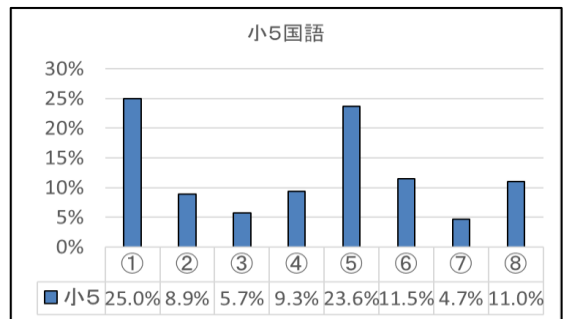
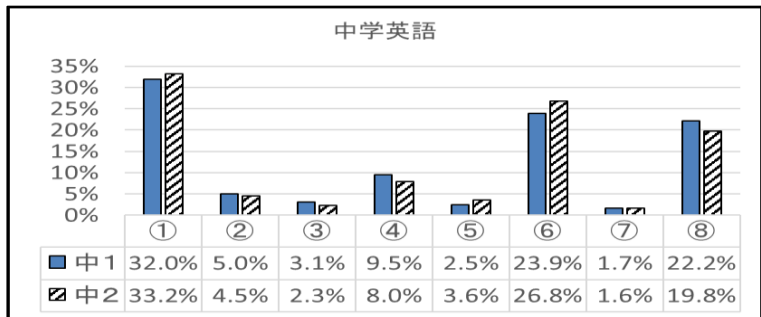
- (1) 単元のゴールとなる言語活動を設定する。その際、目指す生徒の姿をイメージし、発話や発表、訳文の完成例を考えることで、指導の過程における生徒の間違いやすい箇所を想定し、指導への見通しをもつことができる。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定した言語活動と指導を繰り返すことで、表現内容の適切さや英語使用の正確さを高める。
- (3) 文法の規則性や構造などに気付くことができるように、生徒との活発なやり取りから豊富な例文に触れさせる、発話内容を板書等で視覚化するなどの工夫を行う。
- (4) 「語や文法事項等を正しく用いて表現する力」が身に付いたかどうかを確認し、生徒が自身の学びや変容を自覚できるよう支援するために、次のような取組を行う。
 - ・ 学んだことを再度活用する場面を設定する。
 - ・ 振り返りシートにて、内容面と言語面に項目を分けて授業の振り返りをさせる。

IV 児童生徒質問調査の結果

1

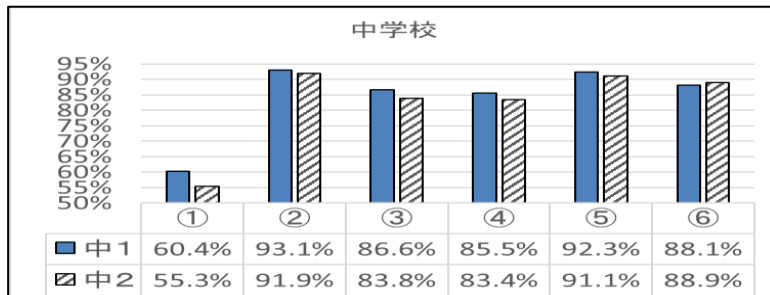
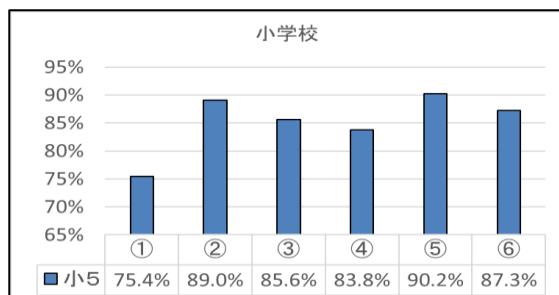
日頃の授業では、どんな活動をする人が多いですか。教科ごとに多い順に二つずつ選んでください。

- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 課題について、調べ学習をする。
- ④ 自分でじっくり考える。
- ⑤ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑥ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑦ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑧ お互いに発表したり、説明したりする。

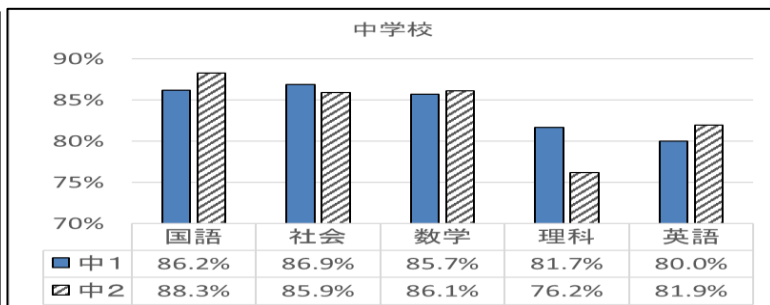
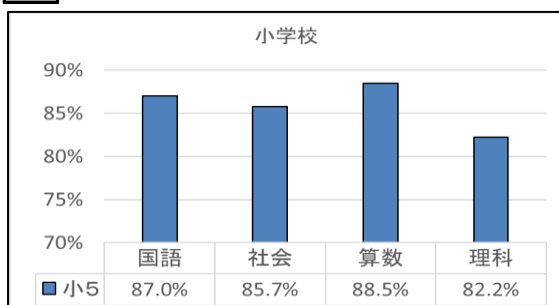


2 あなたは、次のような授業で学んでいて、どのように感じますか（「とてもやりがいを感じる」「やりがいを感じる」を回答した割合）。

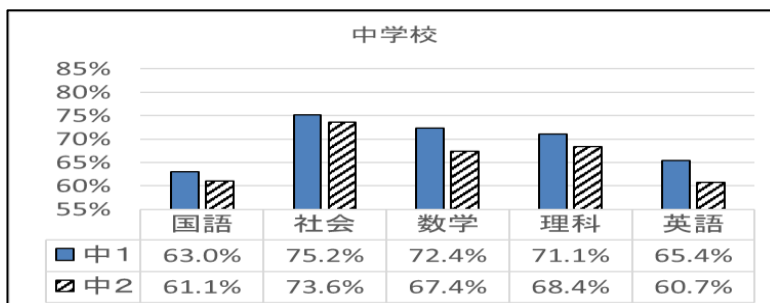
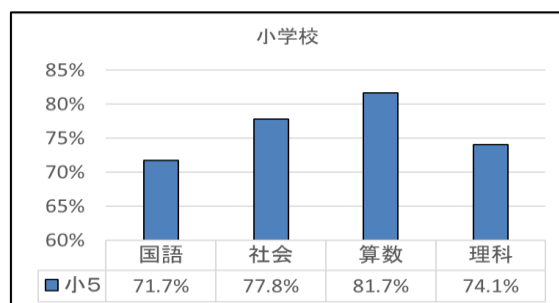
- ① 先生の説明の時間が多い授業
- ② 自分たちで考えたり話し合ったりする授業
- ③ 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業
- ④ 難しい課題に挑戦する授業
- ⑤ 自分たちで調べて、課題を解決する授業
- ⑥ タブレットやパソコン、電子黒板等を活用した授業



3 あなたの学級では、授業のめあて（学習目標）を立てていますか（「よくしている」「どちらかといえばしている」を回答した割合）。



4 授業の終わりに学習内容を振り返る活動（ノートにまとめたり、考えたことを整理したりするなど）を行っていますか（「よくしている」「どちらかといえばしている」を回答した割合）。



R 3 年度 鹿児島市みんな実践

1 共通実践

児童生徒がやりがいを感じ、自己肯定感が高まる学習指導の工夫

2 共通実践例

- (1) 問題解決学習（「めあて、学習課題」と「まとめ、振り返り」のある学習）の実践
- (2) 全教育活動（児童・生徒会活動や学校行事等を含む）に「主体的・対話的」に取り組ませる指導の工夫

単元末の評価問題、定期考査、授業の学習問題、家庭学習の課題として活用

(1) 「かごしま学力向上支援Webシステム 単元・領域別評価問題」の活用

単元の学習後に、知識を再確認する問題だけでなく活用問題を実施しましょう。問題は、ワープロソフトで作成されているため、問題を改変したり、部分的に活用したりすることができます。

児童生徒の学習内容の定着、教師自身の問題作成力の育成に活用しましょう。

また、各教科年間指導計画への記録を行うなども効果的です。

(県作成「令和2年度鹿児島学習定着度調査結果報告書」P10参照)

3 本調査結果を生かした年間指導計画例

理科 年間指導計画 第1学年

〇〇中学校

※ 指導計画に自校の平均通過率、県平均との差、重点項目を朱書き(表中:下線部)したもの。


月	主な学習活動	観点	種	評価規準と方法
5	裸子植物と被子植物 ・ マツの花を、アブラナやフジの花と比べてどのような特徴があるか考える。 ・ 果実をつくらぬ植物には、果実をつくる植物と比べると、どのような特徴があるだろうか。 ・ マツの花のつくりを調べる。 ・ 種子をつくるが子房がない植物を「裸子植物」ということを理解する。 ・ 被子植物について理解する。 ・ 教科書の図や写真、これまでの観察記録を見ながら、被子植物、裸子植物の共通点と相違点を考えて話し合い、発表する。 ・ 自分の考えをまとめ、確認する。 ・ 花がさいていない時期に種子植物を分類できるか、基準を考えてみる。葉のつき方、葉脈、葉の大きさ、葉の形、根の形などに注目する。	知識・技術	〇	種子植物に 察した被子植 表現している 【行動観察・記 録】

よりよい授業を構想するために、PDCAサイクルを繰り返し、改善していくことが有効ですね。

R2 定着度

① (2) マツの花のつくり
県平均 62.8% (自校: -5.4)

① (3) 被子植物と種子植物のつくりの特徴
県平均 87.5% (自校: -5.4)



かごしま学力向上支援Webシステム 単元・領域別評価問題一覧表

小5国語					小5社会					
問題番号	単元	学校の重点問題	活用予定時期	チェック欄	問題番号	単元	学校の重点問題	活用予定時期	チェック欄	問題番号
Q1	話すこと・聞くこと(1)		7月	1	Q1	主な大陸・海洋、我が国の位置と領土	◎	7月	1	Q1
Q2	話すこと・聞くこと(2)		7月	1	Q2	国土の地形の特色				Q2
Q3	書くこと(1)	◎	7月	1	Q3	地域から見て特色のある地域の人々の生活【選択】低い土地の暮らし				Q3
Q4	書くこと(2)	◎	7月	1	Q4	地域から見て特色のある地域の人々の生活【選択】高い土地の暮らし				Q4
Q5	読むこと(1)(文学的文章)	◎	7月	1	Q5	気候から見て特色のある地域の人々の生活				Q5
Q6	読むこと(2)(説明的文章)		7月	1	Q6	食料生産(農業)				
Q7	読むこと(3)(説明的文章)		7月	1	Q7	食料生産(水産業)		12月		
Q8	読むこと(4)(詩)		7月	1	Q8	これからの食料生産		12月		

指導事項の定着を確認する単元のゴールの一つとして、活用してみるのもいいですね。



「令和2年度単元領域別評価問題一覧表より」

(2) 参考資料



「R2年度 県教育委員会報告書」



「かごんまよか授業」



- 「チャレンジ国語1・2」(小学生用)
- 「チャレンジ算数」(小学生用)
- 「チャレンジ理科」(小学生用)
- 「国語のチカラ1・2」(中学生用)
- 「数学のチカラ」(中学生用)
- 「理科のチカラ」(中学生用)

- ※ See=Smile内(学校間共有フォルダ→校務フォルダ→Web問題)にあります。
- ※ 冊子印刷版とタブレット版(国、算・数)があります。
- ※ 算数・数学のタブレット版は、一部自動採点になっています。